八幡製鐵所の罷工職工
嚴戒中に徐々作業を開始す

暴行に恐れて就業を躊躇するもあり
熔鑛爐には三基まで火が入つたが
架空線も構内鐵道も動かぬ

《八幡特派員電話》

八幡製鐵所の同盟罷業は勞友會の幹部が殆ど悉く拘禁されたる氣勢を殺がれ其の上勞友會と他の團體との間に連絡無く又勞友會と立場を異にせりといふ同志會との諒解なき傳統一を失ひ又五日の罷業に對しても強硬論者の暴行脅迫を恐れて本意ならずも雷同したる者尠からざりしより六日午前六時半の交替時間に出勤する者殆んど平常と異らず

製鐵所にては其の途中強硬論者の爲め同一暴行脅迫さるゝ者無きを保し難しとなし市中の要所要所に警官憲兵等を配置し嚴重なる警戒を施したり、出勤したる職工等は各所屬工場に入りたるも形勢を傍觀して作業せず製鐵所當局は各係員をして作業を督勵しつゝあるも大部分は就業することを躊躇し唯工場内に三四人宛團を成して平爐の有樣なるより工場附近に警官憲兵等多數を配置し嚴重に警護し徐々就業せしめつゝあるも何分前日來主要機關の運轉を中止せることゝて七十有餘の各工場何れも今尚休日の狀態を脫せず前日一齊に停止したる構内數百本の煙突より吐く煤煙も僅に數十本に過ぎず構内の空中に縱横に架せられたる數百條のケーブルカーも二三の外運轉を開始せず、構内鐵道も正常に至るも運轉せず又熔鑛爐は五基の中三基まで既に火を入れたりと當局は稱し居るも全部の復舊を見る迄には數日を要すべしと

長官よりの電報
『朝日の號外は事實か』

「事の顚末は既に五日上京中の長官に打電しました、併し長官からは唯「東京朝日の號外は事實なりや」との質問の電報が來たばかりで事件の解決及び罷業團の歸趨に關する指令は何等來つて居ない」と小倉區裁判所よりも一名に席檢事及び兒玉檢事は各書記を隨へ五月後十一時半來幡取調をなし居れり

六日午前十一時福藤警察部長は各新聞記者に對し左の如く語れり

「警察として今回の罷業に關し煽動者及び首謀者を檢擧することゝなり溶原勞友會會長は煽動者として其他は罷業實成者として引致したが未だ判然した手係がないので目下證據を集めてゐる溶原の如きは證據物件たるものがあるので引致したが罷名に就いては未だ明言し難い云々」

尙ほ形勢重大なるため福岡より更に警察官數百名を增援として一部憲兵隊と共に六日朝一番列車にて八幡に着せり

勞友會員の今後の態度
引致卅名
煽動判明

勞友會長の

八幡市大門町勞友會本部に引上げたる會員五百名中更に百餘名は本部内に集合して今後の行動につき協議したるが五日提出したる要求に對する回答期迫會員の行動は自由なりといふ申合せをなし更に回答の如何によつて態度を決することゝせりと

瓦斯停まり
市民恐慌

職工の同盟罷業に驚愕と不安の念に驅られて一夜を明かしたる十萬の八幡市民は六日朝更に俄然の一部暴突より立ち出づるを見て孰れも安堵の胸を撫りたるが同市の瓦斯は全部製鐵所より配給し居れる關係上罷工と同時に瓦斯の供給も全く杜絶となり全市内の家庭は勿論料理店其他數百個のケーブルカーも運轉を中止し構内の空中に縱横に架せられたるのみで依然として市民に大なる不安の念を與へて居る

自分は安心して居る歸る事も見合せた
白仁製鐵所長官談

同盟罷業その後の經過に關し白仁長官は語る「自分の手許に屆いた報告に依ると去る二日頃から修繕工場の職工が賃金値上、時間制限等の要求をした模樣で三日五名の代表者（勞友會理事）が中川次長に面會を求めた

次長は代表者の印のない者には面會の要なしと言つて拒絶したさうだ事だ、所が更に四日に至り工場内に要求書は既に長官に提出したなどゝ觸れ廻つた者があるので、五日朝になつて前記代表者等は再び中川次長に面會を求めた

中川次長以下製鐵所の幹部職員は六日早朝より事務所（樓上の長官室）に集合適宜の處置に就き協議を凝らし中川次長は記者の訪問に對し

「事件の解決は長官に一任してあるから自分は安心して居る歸る事も見合せた」

と語つた

新事業の